

2度の震度7を引き起こした「熊本地震」の避難所調査に参加しました。私が見た熊本市内の避難所は、①住民主体、②学校教職員、③市役所や応援の行政職員による運営がなされているところが見られました。私が見た範囲では、団地などの集会所は住民主体の避難所運営が多く、学校は教職員、市の施設は行政による運営が多いように見受けられました。

ある住民主体の運営がなされている避難所では、熊本市の応援に来ていた政令指定都市の職員の方が「私たちはアパートなどには、管理人さんと同じような感じで、困りごとがあったときにお手伝いをしています。それ以外は、避難者自身で自主的に活動をされています」とおっしゃっていました。



熊本地震の避難所の様子



さだいけ ゆき
定池 祐季
東京大学大学院情報学環
総合防災情報研究センター(CIDIR)
特任助教

剣淵町出身。北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士(文学)。北海道大学助教を経て現職。専門は、災害社会学・防災教育。北海道南西沖地震を奥尻島で経験、災害復興と地域防災に関する研究に取り組むほか、各地で防災教育活動を展開している。2014年より厚真町防災アドバイザー。

一方、ある学校の校長先生は疲れ切った表情で、「子どもたちは自主的に手伝ってくれているが、大人は『お客さん』になってしまい、自分たちで何かをする姿勢が見られない。ふだんから、大人に対する教育が必要だったのでないか」とおっしゃっていました。実際に、小学生から高校生まで、物資を配るなど活躍する姿を見かけました。

改めて、厚真町での春完成したHUG(避難所運営ゲーム)を町内で活用していただきたいと考えさせられる調査でした。

登記Q&A

第7回 遺言書の方式について

Q遺言書を作成しようと思います。遺言書には決まった方式があると聞いたのですが、どのようなものですか。

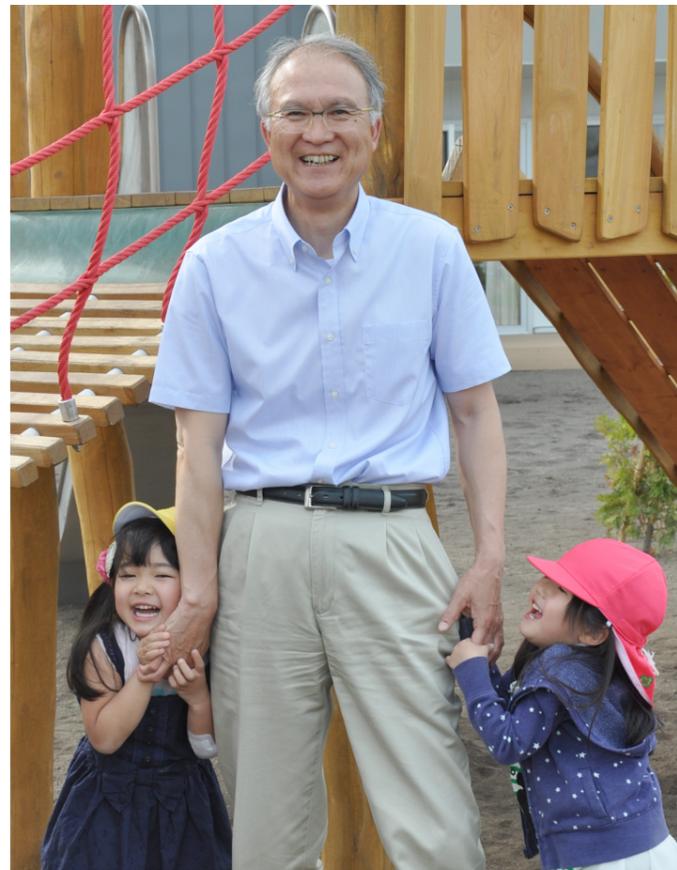
A遺言書の代表的な方式としては、自筆証書遺言と公正証書遺言があります。

- ①自筆証書遺言は、文字通り遺言者が遺言書の全文を自筆します。作成日付を入れ、押印も必要です。手軽で費用もかかりませんが、法律で定められた要件を満たしているか、内容が明確であるかなどの問題が生じる可能性があります。また、遺言者が亡くなったあと、家庭裁判所で「検認」を受けなければなりません。
- ②公正証書遺言は、証人二人以上の立ち会いのもとで公証人に作成してもらうものです。作成の際には一定の手続きが必要で費用もかかります。しかし、専門家である公証人に作成してもらうので、内容や効力に問題が生じる可能性は低いと言えます。また、家庭裁判所の検認手続きも不要です。

遺言書についてお困りの際は、司法書士にお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先

- 札幌法務局苫小牧支局 ☎0144-34-7403 [ホームページ](http://houmukyoku.moj.go.jp/sapporo) http://houmukyoku.moj.go.jp/sapporo
- 札幌司法書士会苫小牧地区 ☎0144-33-8885 [ホームページ](http://www.sihosyosi.or.jp/) http://www.sihosyosi.or.jp/
- 札幌土地家屋調査士会 ☎011-271-4593 [ホームページ](http://www.saccho.com/) http://www.saccho.com/



あつまで I LOVE ATSUMA いきる。

宮の森こども園園長
安部 英志さん(60歳)
「誰もが楽しめる
こども園に」

今年4月1日から宮の森保育園で、5月2日から宮の森こども園で園長として勤務している安部英志さん。

安部さんは、追分町(現在は安平町)出身。今年3月に定年退職するまで、37年間にわたり各地の小学校などで教諭や校長を務めた。厚真へ移住したきっかけは、「3年ほど前、退職後の移住先を探していて、候補の一つとして厚真を訪れたのですが、そのとき、町民の方が町外者の私に対してあいさつや声をかけてくださった。厚真という名前のとおり、『厚い真心』があふれる姿を肌で感じ、その後何度も足を運ぶうちに厚真が好きになり、移住を決めました」といいます。

移住後、第2の人生のスタートを切るべく新たな仕事を探していたとき、町の関係者から園長就任の依頼があったそう。「これまでの経験を生かしながら働ける場所で、厚真町のお役に立てればと思ってお引き受けしました」と話す。

をかけると思わずかしらうに手を振りながら近づいてきてくれる姿を見て「都会の子とは違って、人懐っこく笑ってくれる純粋な子がたくさんいるなと思いました。また、新しい園に変わって、私を含めた大人たちは適応するのに苦労しているのに比べ、子どもたちは以前から使っていたかのように過ごしているのを見て、子どもの適応能力は素晴らしいなと感じました」とのこと。

こども園は、小学校へ通う前の準備として大変重要な役割を担っている。「楽しく通えるこども園」を心がけているという安部さん。「子どもたちはもちろん、先生や保護者、地域の方たちに『来園するのが楽しみ』と思ってもらえる環境づくりをしながら、子どもたちが成長できるようにしていきたいと思っています。また、小学校や中学校との連携も大事にしながら、厚真町の教育に協力していきたいと思っています。」